

# 横浜医療情報専門学校

## 2022 年度学校関係者評価会議事録

日時	2022 年 8 月 23 日(火) 14 : 30~15 : 30	
場所	横浜医療情報専門学校 3 階 セミナー室 ならびに オンライン	
出席者	学校関係者評価委員	中村 ふじ 様 (神奈川県総合教育センター 人材育成課 教育指導員)
		二宮 克行 様 (医療法人社団 顕鐘会 神戸百年記念病院 理事・事務長)
		神崎 昭悟 様 (株式会社カケハシ)
		奈良谷 歩 様 (保護者代表)
	本校教職員	山上 紀彦 (教務部 部長)
		鈴木 和江 (教務部 課長: 医療事務科 学科まとめ)
		平塚 智文 (教務部 課長補佐: 医療 IT 科 学科まとめ)
		秋山 貴志 (教務部 課長補佐: 医療事務科)
欠席者	学校関係者評価委員	真野 誠 様 (一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会)
資料	・当日説明用スライド資料	

## <議論の要旨>

### 1. 教務部長挨拶（山上）

横浜医療情報専門学校は2012年の校名変更および医療IT科新設から丸10年が経過した。2021年度は、「即戦力を持った人材の育成」をテーマに教育活動を続けてきた。しかし、長引くコロナの影響で外部の連携先が少なくなっており、学内でも感染拡大防止を第一に学生の活動に一定の制限を設けたため、学校全体としての活力が落ちている状況である。そこで2022年度の目標としては学校の活力、活気を取り戻すことを第一目標として学校運営を行わせていただきたいと考えている。

委員の皆様のお立場から忌憚のない様々なご意見を頂戴したい。

### 2. 2021年度総括（山上）

#### ➤ 2021年度の目標と取り組み成果

- ・2021年度は、①就職率の向上 ②学生がチャレンジできる場を広げよう ③外部連携を拡充しようの3点に加えて“コロナ禍における新しい教育手法の確立”を重点項目として掲げた。

#### ① 就職率の向上

2020年度落ち込んだ就職率は目標を引き上げ、教員の意識を高めるとともに、学生の希望職種や資質に合わせた個別指導を強化。その結果、目標を達成することができた。

#### ② 学生がチャレンジできる場を広げよう

産（官）学連携プロジェクトの実施件数は目標達成。

#### ③ 外部連携を拡充しよう

外部連携先については、コロナ禍で連携先のイベント等が軒並み中止や延期の状況にあり、これまでの活動すらできない状況であった。新規連携先の獲得も十分にはできず課題となった。

その他、コロナ禍における新しい教育手法は、各教員がそれぞれの授業内で全員が展開できた。

#### ➤ 2021年度自己点検評価（6月実施）

#### ① 教育理念・目標

全項目において概ね良好である。

課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育理念等が新入生保護者ガイダンスに不参加であった保護者への周知が徹底されていない。新入生保護者ガイダンスに不参加であった保護者に対し、視聴期間を設け動画による配信を行ったが、配信動画の視聴状況の追跡までは確認できていない</li><li>・学科ごとに教育目標や人材像を明確にしているが、全ての授業科目への反映が不十分である</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者への定期配信ツールを使用し、全ての保護者に対して周知する機会を設ける</li><li>・各学科のカリキュラム構成の中で、各々の授業科目がどのような位置づけであるか、また何のために行う授業なのか等を明確にし、授業初回時に学習目標と合わせて説明を行う</li></ul>

## ② 学校運営

全項目において概ね良好である。

課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな学習支援プラットフォーム（スタログ）を導入して2年目となり、授業準備や課題等のチェックなどでは効率化が図られているが、学習形態や授業の特性（対面による紙のテキストの使用等）により活用度に偏りが生じている</li> <li>・ITリテラシーの格差により、活用度が上がらないケースが見受けられる</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習形態や授業の特性に囚われずに学習支援プラットフォームを活用する仕組みづくりを行う</li> <li>・マニュアルは整備されているが、運用についてはITリテラシーの格差もあるため、定期的な勉強会や相談会を実施する</li> </ul>

### 【特記事項】

- ・非常勤講師のオンライン授業時のトラブルについては、SNS等を使用し、常勤が即時に対応できるようにバックアップ体制を整備している
- ・情報システムによる業務効率化と情報共有を行っている

## ③ 教育活動

全項目において概ね良好であるが、課題は残る。

課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の検定に直結した授業では、コロナ禍による登校日数の制約等の関係でハイブリッド授業を展開したため、目標値やカリキュラムを暫定的に変更した。人材育成目標に近づけるよう、次年度に向けて予定されていたカリキュラムに適宜修正を加える必要がある。今年度の前期も既に修正を加えて授業を行った</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値の見直しとカリキュラムの修正および不測の事態にも対応できるよう教員のスキルアップに関する取り組みを継続して実施する。また、今年度は対面を原則としていく方針としている。</li> </ul>

## ④ 学修成果

全項目において概ね良好。“退学率の低減”については、大幅に低減できたため優良とした。

課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の就職後の動向調査が不十分である</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在学時に利用していた Slack 等のコミュニケーションツールを卒業後も継続して利用できるようにする。</li> <li>・学園組織の校友会等を通して動向調査を計画的に行う</li> <li>・本校独自の同窓会を組織し、卒業生同士の交流を深める場を提供する</li> </ul>

⑤ 学生支援

全項目において概ね良好だが、“卒業生の支援体制”“課外活動に対する支援体制の整備”については課題を残した。

課 題	・コロナ禍が続き、課外活動の自粛が加速したため、積極的な課外活動ができていない。また、現在の2年生もクラブ・サークルの先輩たちの活動の様子を伺うことができず、1年生への勧誘等も上手く行うことができず、1年生のクラブ・サークルへの参加率が低下している
改善策	・これまでクラブ・サークルの団体数が増えたため担当制を敷き一元管理を行っていたが、1団体1顧問の体制に戻し、活性化を推進する

【特記事項】

- ・学園の中長期計画の中で「卒業生人材データベース」の構築を推進中であり、2027年の完成を目標としている
- ・卒業後も5年間の就職支援を行う「就職支援保証制度」を継続運用中
- ・学習支援の導入として「自立学習応援プログラム すらら」を導入しており、放課後や休み時間等で学生に使用してもらっている

⑥ 教育環境

全項目において概ね良好。

課 題	・備品について、定期的に点検や更新を行っているが、不具合のあるものについて速やかな対応ができていないケースがある
改善策	・施設管理部と連携し、不具合や問題点を共有し速やかな対応を行う

【特記事項】

- ・毎年、通常の避難訓練の他に、併設されている保育園と協働し、不審者や暴漢の侵入を想定した防犯訓練を実施している。長期の休み前などに薬物講習も注意喚起として行っている。

⑦ 学生の受け入れ募集

全項目において概ね良好。

課 題	・TwitterやInstagram等のSNSを通じた情報発信に取り組んでいるが、発信頻度が低い
改善策	・定期的にSNSの情報更新を行うほか、学生会の活動と連動し、積極的に外部に情報発信を行っていく

⑧ 教育内部質保障システム

全項目中7項目をやや不適切とした。年に1度自己点検しているがあくまでも内部評価であり、第三者機関による評価は実施できていない。

課 題	・教職員研修の効果測定までは実施できていない ・自己点検評価は行っているが、内部監査については組織的に行われていない ・授業の相互評価については、一部未実施のものがある
改善策	・授業アンケート等を用いて研修参加前後の効果測定を行い文書化する ・内部監査についての講習会を受講するなどし、次年度実施に努める ・相互評価の指標を明確にし、全科目について評価が行える体制を整備する

【特記事項】

- ・奉職年数の浅い教職員に対し、外部委託し、授業力診断とフィードバックを今年度から開始

⑨ 財務

財務については特別問題ない。

⑩ 社会貢献・地域貢献

全項目において概ね良好。

課 題	・コロナ禍の影響でボランティア活動自体が減少しており、参加件数が低迷している ・学校全体としてもコロナを理由に消極的になっていた部分がある
改善策	・社会情勢を鑑みながら、積極的にボランティア活動に取り組んでいく

⑪ 国際交流

全項目において概ね良好。

課 題	・入学を希望する学生がおらず、留学生の在学はなし
改善策	・当校でも医療通訳のコースなども新たに設置したので、留学生にも目を向けた分野の魅力等について広報していく

3. 2022年度目標と取り組み

➤ 学園教職員が目指す教育サービス

“「楽しい」や「ワクワク」をつくり集いたくなる居場所にする”を共通のスローガンとして教育サービスを提供していくことを学園全体で統一し、全教職員で共有している。

① 学校方針（重点目標）

通いたくなる学校づくりを大きいテーマとしている。学生が学ぶことで成長し自信がつき前向きになれる意味合いも含んでいる。

(1) 楽しい授業、学校の実現

- ・教員が工夫し、科目ごとに授業に“楽しい”を取り入れる
- ・多数のイベント、行事がある楽しい学校

(2) 発想力、主体性の強化（学園全体で鍛えていく）

- ・学生の発想力、主体性を育む、課外活動の活性化

(3) 組織力の強化

- ・部内、課内、グループ内における情報共有の徹底
- ・組織自体が新しいことのチャレンジしていく

② 2022年度トピック

(1) キャリア教育の増強

- ・就職指導以外にキャリア形成教育にも力を入れていく
- ・社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度（非認知能力）を伸ばす
- ・VTS、マインドフルネス等を新しい教育手法を積極的に取り入れていく

(2) 学園横断的な取り組み

- ・7校合同アイデアソン
- ・IWASAKI クリエイティブキャンプ

### (3) 視野・価値観の拡大

外の世界に触れる機会を増やすことを目的に、校外研修回数を例年1回から複数回実施に変更。

#### 【今年度前期実績】

チームラボボーダレス・日本科学未来館・アーティゾン美術館・くすりミュージアム・  
ホスピタルショウ

### (4) 学校の活性化

- ・後期より対面授業回数を拡大
- ・学内イベントの拡充

### (5) 形成的評価（各授業回の到達度評価）の導入

- ・1年次常勤職員全科目に先行導入

## 4. 意見交換

- ・卒業生との繋がりは、今後の学校運営にとって非常に大切であるため、強化した方がよい。卒業生が学校のために協力したくなるように在学中に学校愛を育んでほしい。卒業生とのパイプが強化されることで、企業との繋がりが深くなり、就職等にもプラスの影響がでると考える。卒業生を通して、企業と学校との連携を密にしていくことが大切である。（二宮）
- ・2021年度の目標に対する達成度は理解できるが、経年変化を知るためにも5年前位からの変動推移が分かるような資料があるとよい。また、自己評価は概ね良好（4段階評価の3）であることは良いことであるが、更に学校を良くするために評価を上げるための具体的な施策を考える必要があるのではないかと考える。  
入学者確保については、在校生が学校を選んだ理由を分析することで真実を見ることができると考える。  
教職員の確保については、自身では、教職免許は持っているが実際の教育現場にでたことのない所謂「ペーパーティーチャー」を集めて、研修会を行い非常勤として雇い入れる取り組みを行っている参考になるのではないかと。（中村）
- ・学校評価が概ね良好なのに対して、入学希望者が伸び悩んでいる。医療事務を目指すそもそもの希望者が減っているのか、コロナの影響であるのか、内的要因と外的要因の分析を更に行った方がよい。医療業界も日々変わっているので、今後変わっていく医療業界を軸にPRしてはどうか。（神崎）
- ・保護者からの意見として、卒業生が就職した企業と学生時代に取得した資格との関連が分かるような情報がほしい。また学校の目標としている診療情報管理士や医療情報技師の合格率の目標はもっと高くてもよいのではないかと。（奈良谷）
- ・希望職種ではない企業へのインターンシップに参加しているような気がする。（奈良谷）  
→将来の就職活動のために、目指す職種との比較や自身の新たな可能性に気付く場合もあるため、希望職種以外のインターンシップにも参加するように指導している（平塚）
- ・電車遅延等で登校時間に間に合わない場合、混雑した電車の中で電話をする必要が本当にあるのか。電車内で個人情報を言わなければならないことにも不安を感じている。  
→電車遅延時等の連絡方法については、今後検討していく（山上）

委員の皆様から頂いた貴重なご意見を、本日の出席者以外の教務部メンバーにもフィードバックし、より良い学校運営を行うために活かしていきたいと思っております。本日はお忙しいなか有難うございました。（山上）

以上